

53 果樹試験場育成モモ品種「はつおとめ」「ふくおとめ」

福島県果樹試験場 栽培部・昭和60年～平成12年度試験研究成績書

- 1 部門名 果樹－モモ－育種
- 2 担当者 小野勇治、佐藤守、岡田初彦 04-02-01000000
- 3 要 旨

「はつおとめ(モモ福島4号)」 「ふくおとめ(モモ福島5号)」は極早生種の育成を目標として、昭和59年に福島県果樹試験場において「倉方早生」を母とし、「ちよひめ」を父として交配して得られた実生から選抜、育成した。昭和62年に初結実、平成9年に現地試作試験系統として「モモ福島4号」「モモ福島5号」を付与し、現地への適応性を検討してきた。平成12年にその特性を確認し、育成を完了した。

(1)「はつおとめ」は、樹勢が「ちよひめ」よりやや弱い「中」で、開花期は「ちよひめ」より2日程度遅い。成熟期は満開から約60日で、「ちよひめ」より14日程度早く、育成地において6月中下旬に収穫できる「極早生種」に属する。

(2)「はつおとめ」の果実特性について、果実の大きさは「ちよひめ」より小さい「小」、果肉の色は「乳白」、果肉内・核周囲の着色は「無」である。核割れは「ちよひめ」より多い「多」、裂果は「中」である。果実品質および食味は極早生種としては良好である。

(3)「ふくおとめ」は、樹勢が「ちよひめ」よりやや弱い「中」で、開花期は「ちよひめ」より2日程度遅い。成熟期は満開から約65日で、「ちよひめ」より10日程度早く、育成地において6月中下旬に収穫できる「極早生種」に属する。

(4)「ふくおとめ」の果実特性については、果実の大きさは「ちよひめ」より小さい「小」、果肉の色は「黄」、果肉内・核周囲の着色は「無」である。核割れは「ちよひめ」と同程度で「中」、裂果は「微」である。果実品質および食味は極早生種としては良好である。

(5)栽培上の留意点として、核割れ果の発生がみられるため過度な摘果をさけるように努める。また、裂果の発生が見られる「はつおとめ」については、直射日光により裂果するため摘果は葉のある部分を残すように努める。